

令和3年度  
学校の働き方改革に関する良好事例集  
(学校・教育委員会)



茨城県県南教育事務所



## 良好事例【学校の取組】

### 学校の取組【小学校】

分類	①
見出し	教職員の超過勤務時間個票
取組内容	教職員一人一人の超過勤務時間の個票を毎月配付する。1ヶ月の超過勤務時間の目標や超過勤務時間の推移を知らせる。
導入の効果	<ul style="list-style-type: none"><li>一人一人が勤務時間を意識して仕事をするようになった。</li><li>学校全体の状況を知らせることで、職員全体で働き方を改善する意識が高まった。</li><li>年間360時間までの残り時間を示すことで、仕事の軽重をつけるなど、見直しをもって仕事に取り組めるようになった。</li></ul>
課題・対応	<ul style="list-style-type: none"><li>超過勤務時間の多い職員が固定化されてきている。</li><li>業務の見直しなどを行い、仕事量の平均化を図っていく。</li></ul>
留意点	<ul style="list-style-type: none"><li>月の途中で超過勤務時間を確認し、多くなりそうな職員に対して手立てを講じる必要がある。</li></ul>

### 学校の取組

分類	①
見出し	かえるボードの設置
取組内容	全職員の時間外勤務がわかりやすいように見える化し、職員室に掲示する。
導入の効果	<ul style="list-style-type: none"><li>職員同士で確認できることから、お互いに声を掛け合うようになり、時間外勤務に関する意識が高まっている。</li></ul>
課題・対応	<ul style="list-style-type: none"><li>時間外勤務が45時間を超えてしまいそうな職員に関しては、職員同士で声をかけ合い、仕事など手伝えることができるようにする。</li><li>早く退勤することだけが目的とならないよう、教材研究や児童理解をしっかりと行うようにする。</li></ul>
留意点	<ul style="list-style-type: none"><li>仕事の質を低下させるのではなく、職員同士で協力しながら対応したり、効率よく仕事ができるように進めていく。</li></ul>

### 学校の取組

分類	①
見出し	勤怠管理アプリを使った在校等時間の管理
取組内容	<ul style="list-style-type: none"><li>タイムカードで管理していたものを、アプリと併用することにした。</li><li>月末の集計後に累積超過勤務時間を確認していたが、アプリを利用し、各自で毎日累積超過勤務時間を確認できるようにした。</li></ul>
導入の効果	<ul style="list-style-type: none"><li>累積超過勤務時間が見える化されたことで、教職員の意識の高揚が見られる。</li><li>超過勤務時間の平均も少しずつ減少している。</li><li>入力忘れがあるため、タイムカードをしばらくは併用していく。</li></ul>
課題・対応	<ul style="list-style-type: none"><li>超過勤務時間が長い職員が特定されてきたため、40時間を超えたところで、個別に面談(声かけ)をしている。</li></ul>
留意点	<ul style="list-style-type: none"><li>各自での入力となるため、入力もれや入力時刻に誤りがないようにする。</li></ul>

## 学校の取組【中学校】

分類	①
見出し	情報共有による超過勤務の意識改善
取組内容	定時退勤日、働き方改革週間の位置付けと教職員の毎月の超過時間の一覧を主任会で共有し、在校時間の削減を図った。
導入の効果	<ul style="list-style-type: none"><li>・個人の超過勤務時間について各主任が把握することで、個別にラインケアができるようになった。</li><li>・業務の効率化を学年を中心として意識し、行事の準備や学年会等でも短縮改善が見られる。</li></ul>
課題・対応	<ul style="list-style-type: none"><li>・中学校における抜本的な働き方改革は部活動従事時間の削減である。今まで部活動の削減をこななかったため15の部活があり掛け持ちする顧問が多い。次年度、学級減にともない教員数減となるため部活動の調整が必須。</li><li>・現6年生への希望調査を行い、現在部活動に所属している学年の生徒および保護者への情報提供を行ってきた。新年度の入部状況によって、総合体育大会までで休止、他校との合同チームで活動など周知したところである。今後、1月の新入生保護者説明会に向けて方針を確定し伝達する予定。</li></ul>
留意点	<ul style="list-style-type: none"><li>・管理職側から一方的な指示では、持ち帰り業務などが増加してしまうため、協働による作業効率を高めるほか、自発的に在校時間の削減に向けた意識改革や職員同士の声かけが中心となるよう配慮している。</li></ul>

## 学校の取組【小学校】

分類	①
見出し	勤務時間の見える化
取組内容	<ul style="list-style-type: none"><li>・毎月の超過在校等時間について、個別シートを作成している。シートには、目標時間を明記し、実際の時間と比較できるようにしている。</li><li>・月45時間以内の超過在校等時間について、1日2時間以内であれば実現可能であることを周知している。2時間を超える場合、別の日に時間調整するよう、呼びかけている。</li></ul>
導入の効果	<ul style="list-style-type: none"><li>・月の超過在校等時間について、45時間以内に収めようという意識が高まっている。</li><li>・勤務時間について職員間で声を掛け合う様子が見られるようになってきた。</li></ul>
課題・対応	<ul style="list-style-type: none"><li>・仕事量が変わらないため、職員によっては難しい場合がある。</li><li>・学校行事等により、毎月45時間以内の実現は難しい。</li><li>・スクール・サポート・スタッフや学校サポーター等と仕事の分担等を明確にし、仕事を抱え込まない体制をつくっていく。</li><li>・先の予定を見通して、勤務時間の計画を立てていくよう声を掛けていく。</li></ul>
留意点	<ul style="list-style-type: none"><li>・年間の行事等を見通して、行事の在り方やそれに伴う勤務時間について検討する必要がある。</li></ul>

## 学校の取組

分類	①
見出し	教員評価における個人目標の設定
取組内容	<ul style="list-style-type: none"><li>・教員評価の「学校運営」の項目において、全教職員が「働き方改革」の視点における個人目標を設定し、自己評価をしていく。</li></ul>
導入の効果	<ul style="list-style-type: none"><li>・中間面談の様子から、自分の働き方を振り返るなど、働き方への意識が向上していることがうかがえる。</li><li>・中堅、ベテラン教員が、若手の働き方へのアドバイスをする様子が見られる。</li></ul>
課題・対応	<ul style="list-style-type: none"><li>・評価面談において、適切な自己評価をすることができるよう、管理職が日常の業務状況を把握し、助言していきたい。</li></ul>
留意点	<ul style="list-style-type: none"><li>・在校等時間だけでなく、教職員としての生きがいを大切にした働き方改革の個人目標の設定を促していくことが必要である。</li></ul>

## 学校の取組【中学校】

分類	①
見出し	学年主任を中心とした声かけ・勤務時間の管理
取組内容	<ul style="list-style-type: none"><li>・学年主任会で少しずつ意識改革のために呼びかけを行った。</li><li>・学年主任が学年のスタッフに向けて声をかけてくれた。</li></ul>
導入の効果	<ul style="list-style-type: none"><li>・在校等時間の減少（11月末までの平均在校等時間61時間）</li><li>・職員の意識の高まり。</li></ul>
課題・対応	学年の仕事以外のものまでは管理しきれない。
留意点	継続させていくことが大切なのだが難しい。



### 学校の取組【小学校】

分類	①
見出し	働き方改革週間の実施
取組内容	・繁忙期の学期末成績処理期間に短縮日課を導入。15:10に完全下校とし、1日当たり1時間20分の成績処理時間を確保した。
導入の効果	・放課後の時間が確保されたことにより、勤務時間超過が減少した。 ・余裕をもって計画的に業務をすすめることができるようになった。
課題・対応	・捻出した時間を有効に活用するかどうかは一人一人の意識に係る。 ・職員室黒板に意義を掲示することによる意識付け ・個別の指導
留意点	

### 学校の取組【小学校】

分類	①
見出し	日課表の見直しによる放課後の時間の確保
取組内容	・朝の準備時間や清掃時間の見直しを行い時間を繰り上げた。
導入の効果	・下校時刻が10分繰り上がり、放課後の時間が増えた。 ・水曜日を清掃無しにしたことで、下校が45分繰り上がった。
課題・対応	・低学年ほど、ゆとりの時間が少なくなったと教師が感じるため、さらに指導内容で減らせるものを精選していく必要がある。 ・放課後の時間が増えたとはいえ、教師の業務過多となっているので、時間内に終業できる業務内容の見直しをしていく。
留意点	・学習の質や児童の満足度が減らないよう、削減する内容を見直す必要がある。

### 学校の取組【中学校】

分類	①
見出し	定時退勤日や働き方Weekの設定
取組内容	・毎週月曜日を定時退勤日とした。 ・教育相談等で部活がない週を「〇〇中学校働き方Week」とした。
導入の効果	・月曜日の退勤時間が全体的に早くなっている。
課題・対応	・働き方に対する意識改革に個人差が見られる。 ・優先順位の付け方や空き時間の有効活用について助言をした。
留意点	・一人一人の考え(働き方)があるので、コミュニケーションをとりながら学校全体で働き方改革を行う必要がある。

### 学校の取組

分類	②
見出し	校長会でのラインワークスの活用
取組内容	・緊急連絡網よりできるだけ早く校長会で情報共有できるようにした。
導入の効果	・同時刻に情報を共有でき、学校での対応に差がなくなる。 ・既読した方が随時追加されることで、既読していない方が把握でき、伝達漏れを防ぐことができる。
課題・対応	・休日でもすぐに対応できるため、時間の制約はない。 ・情報共有する内容や伝えるタイミングを考慮する。
留意点	・緊急連絡網の活用をどのように併用していくかを検討していく。

### 学校の取組

分類	②
見出し	計画年休(リフレッシュ年休)午後「0.5」取得の推進
取組内容	・10月～12月に午後「0.5」の年休の取得を奨励し、実施した。
導入の効果	・全職員取得としたため、年休をとりやすい職場環境となった。 ・年休を取得するために仕事を効率よく行うことができた。 ・午後の時間を有効に使うことでリフレッシュにつながった。
課題・対応	・填補の関係で、年休を取る日ができるだけ重ならないよう調整が必要である。 ・予め教職員の希望日等を聞き、調整後、一覧にしたり、週案に載せたりするなどして、共有した。
留意点	・リフレッシュのための年休取得ということ、全職員が取得するということを教職員に浸透させることが必要である。 ・1月～3月においても全職員午後「0.5」の年休を取得予定

### 学校の取組

分類	②
見出し	会議の持ち方の工夫
取組内容	授業のコマの中に学年会や生徒指導部会、教育相談部会、運営委員会などを設定する。
導入の効果	・放課後の時間に部活動指導や教材研究の時間が確保された。
課題・対応	・1コマの授業時間(50分)の中で十分な話し合いができない場合があった。 ・1コマの授業時間(50分)の中で会議が完結するように進めるようにしている。
留意点	・必要最低限の話し合い内容にするとともに、あらかじめ議事内容について参加者に目を通しておいてもらう。

## 学校の取組【中学校】

分類	②
見出し	長時間勤務解消への手立て
取組内容	<ul style="list-style-type: none"><li>・一人一働き方改革の実行(教職員各自が自分の改革目標を決め、実践。進捗状況をもとに学期ごとの改善、修正)</li><li>・給食終了後の20分間を、火曜日、木曜日は昼休み、水曜日、金曜日は清掃とし、放課後に行っていた清掃時間の15分を短縮。帰りの会を短時間で行うこと、部活動の準備、片付けを迅速に行うことを徹底し、4月～9月の火曜日～金曜日の部活動時間を15:45～17:45とした。(6月から実施)</li><li>・部活動は、原則、木曜日は副顧問が指導・監督</li><li>・全職員、学期1回の計画年休取得</li><li>・月2回の各自定時退勤日の設定</li></ul>
導入の効果	<ul style="list-style-type: none"><li>・長時間勤務をよしとせず、早く帰宅しようとする職員の意識が高まった。</li><li>・1学期の部活動終了時刻を早めたことが、放課後の時間確保だけでなく、職員の負担軽減、気持ちの余裕につながった。</li></ul>
課題・対応	<ul style="list-style-type: none"><li>・複数顧問制を有効に活用し、さらに顧問の負担軽減を図りたい。生徒指導上や安全確保の観点から、複数で指導にあたることも多い。公式大会後は、単独顧問による指導を推奨している。</li></ul>
留意点	<ul style="list-style-type: none"><li>・一人一働き方改革が形骸化することのないよう、意識啓発に努める。</li><li>・業務の平準化をより推進する。</li></ul>

## 学校の取組

分類	②
見出し	出退勤に関する取組 定時退校日に限らない勤務時間縮減
取組内容	職員室内に音楽を流すことで、休憩時間や退勤時間を知らせ、時間を意識した働き方を促した。
導入の効果	<ul style="list-style-type: none"><li>・定時退校日に限らず、日常的に声掛け等の取組みを継続することにより、職員の意識が高まってきている。</li><li>・管理職による呼びかけの継続により、以前より退校時間が早くなった。また、定時退校日ではなくても、比較的何も無い日は、退勤の呼びかけを継続していくことができている。</li><li>・退校時間になったら、同じ学年で声を掛け合っている。</li></ul>
課題・対応	<ul style="list-style-type: none"><li>・若い教職員に対して、仕事を効率的に進めるよう支援していかなければならない。</li><li>・健康を損ねてしまっでは、健全な学校・学級経営はあり得ない事を管理職から全職員に徹底し、意識の高揚を図らなければならない。</li></ul>
留意点	<ul style="list-style-type: none"><li>・優先順位をつけて計画的に業務遂行できるようにサポートしていく。</li></ul>



### 学校の取組【小学校】

分類	③
見出し	登下校指導・見守りの改善
取組内容	・登校指導・一斉下校の見守りは、学校運営協力員や地域ボランティアの協力を得て行う。
導入の効果	・教職員が朝早く出勤する必要がなくなった。 ・担任を持つ職員が、各教室で余裕を持って児童を迎えることができるようになった。
課題・対応	・地域ボランティア等の連絡を密にとり、連携していく。 ・地域ボランティア等との連絡体制を整備する。
留意点	・月の途中で超過勤務時間を確認し、多くなりそうな職員に対して手立てを講じる必要がある。

### 学校の取組

分類	③
見出し	部活動の地域移行
取組内容	生徒個々のニーズに応じた部活動の地域移行体制づくり
導入の効果	・民間スポーツクラブが、学校と部活動を共同で担当することで部活動の地域移行と教職員の負担軽減を図る。
課題・対応	・民間スポーツクラブは、地域により実態が異なる。 ・市内全校で実施するには指導者が不足している。
留意点	

### 学校の取組

分類	③
見出し	サポート・スタッフの参画
取組内容	・スクールアシスタントによる学級事務や授業準備の補助
導入の効果	・スクールアシスタントが連絡帳のチェック、提出課題のチェック、教材プリントの印刷を担うことで学級担任に時間が増えた。
課題・対応	・どのクラスにも平均的に配置すること
留意点	・スクールアシスタントとの連絡調整を十分に行う必要がある。

### 学校の取組

分類	③
見出し	学校行事や授業の保護者・地域人材の活用
取組内容	<ul style="list-style-type: none"><li>・事前にボランティアとして登録してもらい、アプリでその都度参加をよびかける。</li><li>・運動会代替行事の準備、図工や体育の授業の準備や見守り、花壇の整備等に協力していただく。</li><li>・校内授業研修時の教室見守りを依頼する。</li></ul>
導入の効果	<ul style="list-style-type: none"><li>・準備等、教職員の業務の縮減と、研修の時間の確保につながった。</li><li>・児童と共に活動することで、学校運営への関心や理解が高まった。</li></ul>
課題・対応	<ul style="list-style-type: none"><li>・現在窓口は副校長になっているが、学校運営協議会とさらに連携を図り、負担軽減を図っていく。</li></ul>
留意点	<ul style="list-style-type: none"><li>・協力者が増えれば児童の個人情報に係ること等、参加にあたってのルールづくりが必要になってくる。</li></ul>

### 学校の取組

分類	③
見出し	部活動指導員の配置
取組内容	<ul style="list-style-type: none"><li>・男女バスケットボール部に1名ずつ部活動指導員を配置した</li></ul>
導入の効果	<ul style="list-style-type: none"><li>・週休日や休日の部活動指導がなくなった。</li><li>・公式戦(総体)の引率がなく、学校で勤務できた。</li></ul>
課題・対応	<ul style="list-style-type: none"><li>・部活動指導員とバスケットボール部担当教員との連携を強化する。</li><li>・大会前になると必然的に練習試合が増えること(任用時間が変則的になること)</li></ul>
留意点	<ul style="list-style-type: none"><li>・大会の参加については、その都度必ず起案を通し、管理職の了解のもと、参加する。</li></ul>

### 学校の取組【小学校】

分類	③
見出し	学校サポーター・ボランティア等の活用
取組内容	花壇作業・印刷・消毒・清掃作業・登下校時の交通指導等
導入の効果	<ul style="list-style-type: none"><li>・出勤後すぐに教室に向かえ、児童と触れ合う時間が増えた。</li><li>・教材研究や事務時間の確保ができた。</li></ul>
課題・対応	<ul style="list-style-type: none"><li>・学校サポーター等は、時間の縛りがある。</li><li>・ボランティアも高齢化し、新加入者の入会システムの構築が必要である。</li><li>・学校サポーターやスクールサポートスタッフの可能な仕事内容や勤務時間を明確化し、作業を依頼しやすいようにした。</li></ul>
留意点	<ul style="list-style-type: none"><li>・学校サポーターの勤務時間増加について検討してほしい。</li></ul>

### 学校の取組

分類	④
見出し	学校評価や、行事後のアンケートのペーパーレス化
取組内容	・保護者、職員、児童へのアンケートをGoogleフォームを活用して行う。
導入の効果	・アンケートを印刷して配布したり集計したりする時間が削減された。 ・保護者へのアンケートは、学校メールを使って周知した。そのため、両親でそれぞれ回答したり、重複して送信したりする家庭が見られた。
課題・対応	・回答方法を周知した。
留意点	

### 学校の取組

分類	④
見出し	授業や家庭学習で使用するプリントの印刷
取組内容	家庭配付のお便りをホームページにアップする。
導入の効果	・プリント類を印刷して配付する時間が削減された。 ・児童生徒の紛失対応が必要なくなった。 ・紙資源の保全になった。
課題・対応	・家庭への周知 ・配付文書の教職員相互の理解
留意点	・紙媒体が必要な家庭への配付

### 学校の取組【小学校】

分類	④
見出し	学校徴収金の会計処理改善
取組内容	・JAインターネットバンキングの導入による効率化
導入の効果	・各口座間の資金移動、入金確認、業者への振り込みがWEB上で行えるため金融機関へ出向く必要がなく、教員の会計処理事務負担が軽減された。 ・インターネットバンキング年間使用料が発生する。
課題・対応	・インターネットバンキング年間使用料の公費負担への働きかけ
留意点	・事務職員の単独処理にならないようにチェック機能を生かしていく。

### 学校の取組【小学校】

分類	④ ⑤
見出し	GIGAスクール端末を活用した学校業務の改善
取組内容	<ul style="list-style-type: none"><li>・連絡帳を端末で入力</li><li>・体温管理をアプリ入力</li><li>・学校からのお便りのメール配信(印刷配付なし)</li><li>・掲示物の朱書きコメントの廃止</li></ul>
導入の効果	<ul style="list-style-type: none"><li>・情報収集が一元化され、データの集計・閲覧が容易になった。</li><li>・統一したフォームを活用することで、担任の負担が減った。</li><li>・提出方法が明確になり、保護者の負担が減った。</li></ul>
課題・対応	<ul style="list-style-type: none"><li>・インターネットへのアクセスが難しい家庭は情報を送受信できない。</li><li>・機器の操作が分からない教員がいた。</li></ul>
留意点	<ul style="list-style-type: none"><li>・誤った情報や、不完全な情報の配信を行う可能性がある。</li></ul>

### 学校の取組【小学校】

分類	④
見出し	平日における分散PTA奉仕作業の実施
取組内容	<ul style="list-style-type: none"><li>・土日に実施していたPTA奉仕作業を平日に実施するようにした。</li></ul>
導入の効果	<ul style="list-style-type: none"><li>・教職員が、土日に出勤することがなくなった。</li><li>・保護者は、指定した連日4日間の午前の部と午後の部の8つの選択肢から、分散で1回参加するため、密が回避され、また、参加率も高まった。</li></ul>
課題・対応	<ul style="list-style-type: none"><li>・季節にもよるが、冬の実施の場合は、4日間の連日にすると、4日目には、落ち葉掃きなど仕事の内容が少なくなりました。</li><li>・担任外の職員で行い、担任は、通常の授業を実施して、授業時数確保に努めるようにした。</li></ul>
留意点	<ul style="list-style-type: none"><li>・今後は、課題を踏まえながら、日時の設定を検討する必要がある。</li></ul>

### 学校の取組

分類	④
見出し	掲示する児童生徒の作品へのコメント記入業務の削減
取組内容	<ul style="list-style-type: none"><li>・掲示物に対して朱書きでコメントを記入していたが、その業務を削除した。</li></ul>
導入の効果	<ul style="list-style-type: none"><li>・コメントを記入する時間が削減された。</li><li>・作品提出から掲示までの時間が短縮された。</li></ul>
課題・対応	<ul style="list-style-type: none"><li>・教師の評価をどのように児童生徒に伝えるかが課題。</li><li>・マーカーで付ける色の意味を統一し、児童生徒とも共有することにした。</li></ul>
留意点	<ul style="list-style-type: none"><li>・児童生徒の作品中の誤字脱字等の指導は丁寧に行い、修正させてから掲示するなど、子どもを大切にす姿勢は今後も継続していく。</li></ul>

### 学校の取組

分類	④
見出し	繰り返しドリルの廃止
取組内容	<ul style="list-style-type: none"><li>・市販のドリル(計算、漢字)の導入を廃止した。漢字や計算は、プリント作成ソフト(無料)を活用し、学校オリジナルの家庭学習用教材を使用している。繰り返しの練習や丸つけは行わない。</li></ul>
導入の効果	<ul style="list-style-type: none"><li>・放課後の丸つけ等、事務時間の大幅な短縮を図ることができた。</li><li>・1週間ごとの到達目標が明確になり、そこに向けて意図的な教材作成と計画的な学習を行うことができた。</li><li>・「ドリルさえやっておけば」という保護者の意識を変えることにもつながった。</li></ul>
課題・対応	<ul style="list-style-type: none"><li>・追加課題や難易度を上げた課題、自主的に取り組める課題を検討する必要がある。</li><li>・一度作成した課題を集約し、いつでも使えるようなデータベース化や紙媒体での一括管理を継続し、毎年新たに作成することがないように、保存や活用を徹底する必要がある。</li></ul>
留意点	<ul style="list-style-type: none"><li>・保護者への事前、事後の丁寧な説明とフォロー(ドリルがないと勉強しないという思い込みへの対応)が必要である。</li></ul>

### 学校の取組

分類	④
見出し	大学との連携による部活動の指導
取組内容	<ul style="list-style-type: none"><li>・大学と連携し、技術指導を直接行うだけでなく、オンラインでも行う。</li></ul>
導入の効果	<ul style="list-style-type: none"><li>・専門外で部活動を担当している教員の負担軽減</li></ul>
課題・対応	<ul style="list-style-type: none"><li>・今後の事業の拡げ方</li><li>・部活の種目が限定されている。</li></ul>
留意点	

### 学校の取組

分類	④
見出し	部活動の複数顧問制の導入
取組内容	<ul style="list-style-type: none"><li>・令和3年度より各中学校で複数顧問を配置</li><li>・平日及び休日の指導を交代制で実施</li></ul>
導入の効果	<ul style="list-style-type: none"><li>・部活動指導のない日の、放課後の時間を有効活用することができる。</li><li>・運用当初は意識化が難しかったが、現状ではスムーズに実施できている。</li></ul>
課題・対応	<ul style="list-style-type: none"><li>・部活動数の削減について</li><li>・部活動指導員の活用について</li><li>・小学校や町と連携し、今後の部活動の在り方を検討していく。</li></ul>
留意点	<ul style="list-style-type: none"><li>・部活動の指導力に差がある面が見られるので、活動計画を明確にする。</li></ul>

### 学校の取組

分類	⑤
見出し	体育的行事内容の練習時間の削減
取組内容	・運動会での表現運動をなくし、持久走大会前の業間マラソンをなくした。
導入の効果	・練習時間が短くなり、教職員の負担感が減った。 ・児童生徒の負担感も減った。 ・業間の時間を面談等の別な業務に充てることができた。
課題・対応	・量から質の運動会への改善を今後も継続していくこと。 ・体力向上に向けた、より効果的で計画的な実践が必要である。
留意点	・体力低下につながらないように、全校で運動の重要性を共通理解していくことが不可欠である。

### 学校の取組

分類	⑤
見出し	会議、研修等の精選
取組内容	・会議、研修等の回数の必要最小限及び短時間化 ・会議前に教頭・教務が事前調整を行うことで、企画会の削減と内容の充実を図る。
導入の効果	・市での留守番電話導入も重なり、放課後の時間を学級事務や教材研究等に充てることができるため、退勤時刻が早くなっている。
課題・対応	・運動会等、学校全体が動く行事に関しては、企画会を確実にし、仕事の分担や安全対策等に抜けがないようにしていく。
留意点	・会議や研修、企画会の年間を通した計画の再検討が必要である。

### 学校の取組

分類	⑤
見出し	必要性のない業務の削減の実施
取組内容	教職員のアイデアを生かし、下記の業務を学校長判断で削減した。 ・廊下掲示物の原則廃止(必要がある場合は可) ・保護者宛の週予定表の配付の廃止 ・全校一斉下校の精選(週1から月1へ) ・休日のうさぎの世話の廃止(管理職が実施) ・年賀状、暑中見舞いの廃止
導入の効果	・土日の出勤日がかかり減ってきた。 ・週予定の廃止により、児童の自己管理能力と自己管理への意識に変容が見られるようになった。 ・放課後の業務時間の確保ができるようになった。
課題・対応	・削減した業務に関する振り返り(教職員、保護者)を行い、来年度への取組につなげていきたい。
留意点	・削減にあたって、教職員の共通理解を図るとともに、保護者、地域との情報共有も図っていくことが必要である。

### 学校の取組

分類	⑤
見出し	回覧文書のデータ化
取組内容	・データで送られてきた回覧文書は、そのままクラウド内の専用グループに入れるようにした。
導入の効果	・印刷、配付の時間が削減できた。 ・職員のタブレットからいつでも閲覧できるようになった。
課題・対応	・職員によって、定期的閲覧する回数が違うため、全体への情報の共有にまだ時間がかかること。 ・定期的な閲覧を呼びかけ、早期の情報共有に努めている。
留意点	・重要な情報については、通知設定を変更するなど、ルールの設定が必要である。

### 学校の取組

分類	⑤
見出し	日課表の変更による事務処理や教材研究の時間の確保
取組内容	・朝自習と朝読書をなくし、昼休みと清掃活動を交互に実施することで、毎日30分間短縮することができた。(週2時間30分の時間を生み出した)
導入の効果	・教材研究や事務処理を行う時間が増え、超過勤務時間が減少した。 ・中学校では、冬季の放課後の練習時間の確保につながり、生徒のための日課の見直しとなっている。
課題・対応	・学期末など、繁忙期にはさらに事務処理の時間が必要。 ・1週間単位で5時間授業を行い、学期末の事務処理の時間を確保した。(予備時数の運用)
留意点	・臨時休業期間が1か月あると、年度当初考えていた予備時数が大幅に減少する。そういう可能性を考慮しながら5時間授業を設定することが必要。

### 学校の取組

分類	⑤
見出し	通知表所見の見直し
取組内容	・1、2学期の所見は、個人面談等で保護者に伝え、通知表に所見を書かないこととした。
導入の効果	・学期末に所見を記載する時間が削減された。 ・通知表と面談の内容が重複することがなく、効果的に行うことができた。
課題・対応	・実施前に、保護者の理解を図ることが必要なことから保護者あてに、通知を配付した。 ・教職員が、児童生徒を見取ることができなくなることも考えられるため、補助簿等の確認を管理職が行った。
留意点	・教職員の負担軽減は子供に還元し、子供と接することができる時間の確保のためだということを理解した上で実施する。



## 教育委員会の取組

分類	①
見出し	各校の超過在校時間データを一括管理するエクセルシートを作成
取組内容	<ul style="list-style-type: none"><li>・超過在校等時間の推移を個票として配付し、見える化できるようにする。</li><li>・各校から提出されるデータを貼り付けるだけで、教職員の超過在校等時間や、月毎の推移、前年度との比較など、指導助言する上で必要な形でデータを見ることができる。</li></ul>
導入の効果	<ul style="list-style-type: none"><li>・各校で個表作成と今月の目標設定、産業医との面接の意思の確認を簡単且つ確実にできるようになった。</li><li>・9月から始まった職種別超過在校等時間の状況は、エクセルで自動抽出できるため、学校に作成を依頼しないで済む。</li></ul>
課題・対応	<ul style="list-style-type: none"><li>・細かな不具合があり、その都度修正が必要である。</li><li>・令和元年から導入し、改善してきたため、今年度は修正の必要がなかった。</li></ul>
留意点	<ul style="list-style-type: none"><li>・学校で必要に応じてシートの追加や計算式の変更を行うことを認めている。</li></ul>

## 教育委員会の取組

分類	①
見出し	時間外勤務の状況確認
取組内容	<ul style="list-style-type: none"><li>・前月、超過在校等時間が80時間を超える教職員がいた学校に、電話で、80時間を超えてしまった職員の様子と今月の時間外勤務の状況を確認する。</li></ul>
導入の効果	<ul style="list-style-type: none"><li>・教頭が電話対応し、関係職員と面談等を行うことから、80時間を超える教職員数が減少した。</li><li>・教職員の働き方改革に対する意識改革が図れた。</li></ul>
課題・対応	<ul style="list-style-type: none"><li>・教職員間で意識の差があることから、これまでの業務は児童生徒のために本当に必要な業務か、見直しが適切かどうかを全教職員で共通理解を図りながら、対応できるようにする。</li><li>・学校全体で進めてもらうためには、管理職の理解が必要なことから、校長会、教頭会で働き方改革の必要性について指導、助言している。</li></ul>
留意点	<ul style="list-style-type: none"><li>・状況を適切に確認できるよう、1週目から前月80時間を超えている職員について確認を行う。</li></ul>



## 教育委員会の取組

分類	①
見出し	教職員の在校時間等の管理
取組内容	<ul style="list-style-type: none"><li>・教職員の在校時間等をクラウド上で確認できるように整備した。</li></ul>
導入の効果	<ul style="list-style-type: none"><li>・教育委員会からでも、一人一人の在校時間等を確認できる。</li><li>・定期的に確認することで、管理職へ声掛けの依頼ができる。</li><li>・毎月の調査を、市教委で作成することができる。</li></ul>
課題・対応	<ul style="list-style-type: none"><li>・教職員の正確な打刻(タイムレコーダーへの記録)</li><li>・管理職の定期的な確認</li></ul>
留意点	<ul style="list-style-type: none"><li>・学校と情報の共有</li></ul>



### 教育委員会の取組

分類	①
見出し	2学期制の導入
取組内容	・令和3年度より2学期制を導入し、学校生活の一層の充実、学びの質の向上、授業時間の確保を図る。
導入の効果	・年間スケジュールの見直しができた。 ・児童生徒と関わる時間を、多く生み出すことができた。
課題・対応	・通知表のフォーマット作成 ・随時検証しながら、より効果的な形式に改善していく。
留意点	・町内全学校の実態をふまえながら、随時検討していくことが必要である。

### 教育委員会の取組

分類	①
見出し	働き方改革推進委員会の設置
取組内容	・教育委員会と学校代表者からなる推進委員会を設置し、働き方改革を推進するための取組状況や方策を協議する。
導入の効果	・教育委員会内の各課の連携や情報共有を図ることができた。 ・教育委員会事務局が学校現場の実態を把握することができた。 ・学校の教職員の勤務時間に対する意識改革を図る。
課題・対応	・教育委員会と学校代表者が意見交換をすることで、学校の実態を把握し、教育行政と学校が一体となって働き方改革を推進する。
留意点	

### 教育委員会の取組

分類	①
見出し	守谷型カリキュラム・マネジメント
取組内容	・週5時間を3日設定
導入の効果	・児童生徒の下校時間を早めることで、教職員の事務処理等の時間を確保
課題・対応	・中学校の部活動顧問の時間 ・複数顧問制を最大限に活用する。
留意点	・生徒の意欲を損なわないような、中学校の部活動の場の設定

## 教育委員会の取組

分類 ①

見出し 市費小学校教科担任制

取組内容 ・高学年の理科、図画工作、音楽の授業を担当

導入の効果 ・小学校担任の空き時間を確保  
・学級事務の時間として活用  
・中学校へのスムーズな移行

課題・対応 ・市費教科担任教員は、複数校兼任している。  
・生徒指導等、児童の情報共有  
・学級担任と市費教科担当職員との情報交換

留意点 ・学級担任と市費教科担当職員との情報交換の時間を確保する必要がある。



### 教育委員会の取組

分類	②
見出し	留守番電話の設置
取組内容	・令和3年9月より留守番電話の運用を開始 留守電対応時間 (小学校)17:00～翌8:00 (中学校)18:00～翌8:00 ・学校と教育委員会の間でも、原則、午後4時半以降の電話でのやりとりを停止
導入の効果	・放課後、教員が必要な業務に専念することができている。 ・欠席等の連絡をWEB化したこととあわせて、児童生徒を迎え入れる朝の準備に余裕をもって取り組んでいる。
課題・対応	
留意点	・保護者の理解を求める必要がある。 (導入後、留守電導入に対する保護者の反対意見はない)

### 教育委員会の取組

分類	②
見出し	時差出勤の実施
取組内容	・時差出勤制度を直前の申請でも実施できるようにし、全教職員が円滑に活用できるよう環境整備した。
導入の効果	・長期休みに限ることなく取り入れられるようにし、コロナによる臨時休校などにも対応できるようにした。
課題・対応	・仕事内容には持ち帰れないものもあり、休みが取りにくいことが発生する場合がある。 ・担任ではなかなか時差出勤とはいかない。
留意点	・通常とは違う時間での勤務となるため、適切な時間の幅を決める必要がある。

### 教育委員会の取組

分類	②
見出し	閉庁日の拡充
取組内容	・計画的に年休取得ができるよう、年間11日の閉庁日を設定した。
導入の効果	・効率的な業務の在り方について、各自がマネジメントすることができた。 ・ワークライフバランスを意識し、メリハリのある勤務ができている。
課題・対応	・生き物や花壇の水掛け等について ・PTAや地域人材の協力をお願いする
留意点	・教職員個々の勤務状況を把握しながら指導・助言していく。

### 教育委員会の取組

分類	③
見出し	スクールスタッフ増員
取組内容	市独自の予算によりスクールスタッフを111名に増員した。 ①市TT(10名) ②学習支援4名 ③小中一貫4名 ④英語専科2名 ⑤学校司書4名 ⑥理科支援員2名 ⑦特別支援教育支援員 40名 ⑧スクールカウンセラー 2名 ⑨みらい土曜塾12名 ⑩ICT支援員4名 ⑪教育支援センター6名 ⑫部活動外部指導者10名
導入の効果	・教職員の学習指導支援や超過在校等時間の削減に効果がある。
課題・対応	・適材適所に人材を派遣することが難しい。 ・人材派遣のための予算計上が困難を極める。
留意点	・勤務環境を支援するなどの働きかけを丁寧に行う。

### 教育委員会の取組

分類	③
見出し	村スクールサポーター、県学校サポーターの配置
取組内容	・村で消毒等の作業や清掃等の仕事を行ってもらう学校サポーターを全小中学校に配置し、教職員が活用できるよう環境整備した。
導入の効果	・児童生徒への指導以外の時間を短縮するとともに、授業等の準備や事務処理にかかる時間が増加した。
課題・対応	・仕事内容を明確にし、スタッフに伝える手立てを工夫すると、更に時間が生み出される。 ・当たり前と思っていた仕事の中にもまだ依頼できる仕事がある。
留意点	・依頼できる仕事を確認し合って効率よく依頼する。

### 教育委員会の取組

分類	③
見出し	外部人材の活用
取組内容	・学習支援員、生活支援員等を配置した。 ・除草作業やワックスがけなどを業務委託した。
導入の効果	・児童生徒の学習・生活面での支援が充実した。 ・教職員の業務削減につながった。
課題・対応	・人材と予算の確保 ・成果や必要性を明確にして確保につなげる。
留意点	・業務内容の共通理解を十分図ることが必要である。

### 教育委員会の取組

分類	③
見出し	学校サポーター 令和4年度以降の市の任用への取組
取組内容	・教育総合会議の議題に取り上げた教員の勤務状況と来年度に向けての学校サポーターの継続・増員について
導入の効果	・学校サポーターを継続・増員することによる教師の業務負担軽減
課題・対応	・学校サポーターの確保 ・任用に向けての手続き等の整備
留意点	

### 教育委員会の取組

分類	③
見出し	市教育委員会顧問弁護士の活用
取組内容	・生徒指導上のトラブル等に対する法的助言や対応を、顧問弁護士に依頼し、学校の負担を軽減した。
導入の効果	・法的根拠が明らかになることで、自信をもって課題へ対応することができた。 ・対応窓口を顧問弁護士に移すことで、対応に関する業務がなくなり、肉体的・精神的負担が軽減された。
課題・対応	・校長が気軽に、直接弁護士に相談することはできない。 ・生徒指導担当指導主事と室長が学校と十分に話し合い、主訴を的確に把握したうえで、室長が顧問弁護士に相談する。
留意点	・顧問弁護士に相談すべき事案かどうかについては、教育長、教育部長、室長が十分に協議し決定する。

### 教育委員会の取組

分類	③
見出し	市費会計年度職員の採用
取組内容	・市費会計年度職員を採用し、学校に配置することで教職員の負担軽減を図る。
導入の効果	・学校相談員(警察OB)を配置し配慮の必要な児童生徒への対応をしたり、各中学校区に英語のTTを配置し各小学校の外国語の授業にTTで参加したりすることで教職員の負担軽減になっている。
課題・対応	・学校からは、配置人数の増加要望があげられている。 ・学校への効果を検証し、増員に向けて継続して対応していく。
留意点	・学校ごとに適宜対応していく必要がある。

## 教育委員会の取組

分類	④
見出し	検温アプリ リーバーによる検温と欠席連絡
取組内容	・コロナ禍で検温アプリ リーバーを市費負担で導入したが、そのメッセージ機能で小学校のみ欠席の連絡に活用
導入の効果	・検温については、教員の負担が軽減している。欠席の連絡に活用することで、朝の電話対応が激減し、授業準備などにあてることが可能になった。
課題・対応	・中学校では生徒指導上、保護者からの電話でのみ対応 ・今後、アプリの活用が可能か、生徒指導上の問題がクリアできるか検討
留意点	・運用の仕方について再度各校で保護者に周知する必要がある。

## 教育委員会の取組

分類	④
見出し	給食の公会計化
取組内容	・給食の公会計化を行うことで学校での事務負担軽減を図る。
導入の効果	・特に大規模校の事務職員については、大きな負担の軽減につながっている。
課題・対応	・引き落としができない際の振り込みの方法で戸惑う等の例が見られた。 ・再度保護者への周知が必要
留意点	・学校教育課職員の業務の負担についても見直す必要がある。

#### 教育委員会の取組

分類	④
見出し	全小学校への専科教員の配置
取組内容	・専科教員に兼務発令し、全小学校で専科教員の配置を行った。
導入の効果	・教科担任制が促進できたとともに、教職員の空き時間の確保につながっている。
課題・対応	・規模によって専科の配置に差が出てしまっている。 ・学校統合を機に再度専科の配置を検討していく。
留意点	・兼務の際の移動による負担が懸念される。

#### 教育委員会の取組

分類	④
見出し	研究指定校の廃止
取組内容	・研究指定校を廃止 ・教育研究会と連携し、各教科等部会ごとの授業公開へ移行
導入の効果	・研究指定校の負担がなくなった。
課題・対応	・各教科等部会によって取組に差が見られた。 ・授業を公開する一部の教員への負担を軽減するため、計画訪問とあわせて授業公開を行った。
留意点	教育研究会と入念な打合せが必要である。



## 教育委員会の取組

分類	④
見出し	ICT活用
取組内容	<ul style="list-style-type: none"><li>・校務支援システムを導入した。</li><li>・学校と家庭をつなぐ連絡システム「すぐーる」を導入した。</li></ul>
導入の効果	<ul style="list-style-type: none"><li>・成績処理、通信表や指導要録作成等の効率化が図れた。</li><li>・文書配付、アンケート集計、出欠席連絡等の効率化が図れた。</li></ul>
課題・対応	<ul style="list-style-type: none"><li>・活用できるようになるまで、相当な時間や労力がかかる。</li><li>・操作等に関する研修を実施した。</li></ul>
留意点	<ul style="list-style-type: none"><li>・データの管理を十分に行うことが必要である。</li></ul>

## 教育委員会の取組

分類	④
見出し	指導案、板書計画、教材の共有
取組内容	<ul style="list-style-type: none"><li>・作成した教材を域内の全小中学校で、クラウド上の共有フォルダに学年、教科毎に保存し、市町村域内の教職員が活用できるよう環境整備した。</li></ul>
導入の効果	<ul style="list-style-type: none"><li>・教材研究の時間を短縮するとともに、授業の質が向上した。</li><li>・必要な教材がすぐに手に入れられるようになった。</li></ul>
課題・対応	<ul style="list-style-type: none"><li>・フォルダ活用に関するルールを設ける。</li><li>・校務分掌や学年・教科・单元ごとにフォルダを整理した。</li></ul>
留意点	

#### 教育委員会の取組

分類	④
見出し	校務支援システムの導入
取組内容	・校務支援システムを導入することで、教員の事務軽減を図る。
導入の効果	・校務支援システムを導入することで、文書の手書きの処理が大幅に削減され、事務軽減を図ることができた。
課題・対応	・システムの細かな設定がまだ統一されていない。 ・システムに慣れるまでは時間がかかる。
留意点	

#### 教育委員会の取組

分類	④
見出し	データの共有
取組内容	・市内全小中学校で、センターサーバーの共有フォルダやC4thに保有し、市町村域内の教職員が活用できるよう環境整備した。
導入の効果	・各学校で必要なデータの閲覧や活用がスムーズになった。
課題・対応	・フォルダ活用に関するルールを設ける。 ・必要な様式や指導案ごとにフォルダを整理した。
留意点	・紙媒体の印刷を十分に検討し、経費削減に努める。

### 教育委員会の取組

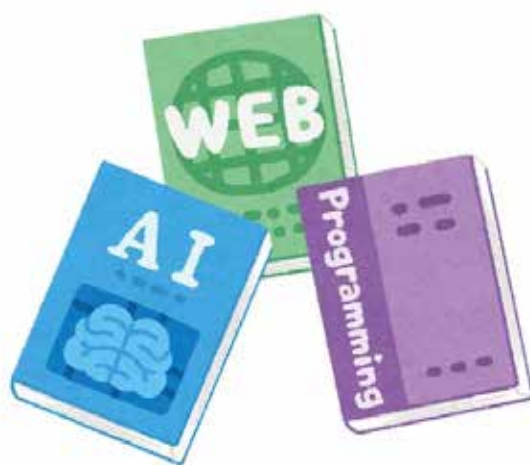
分類	④
見出し	研修会等のオンライン会議の活用
取組内容	・これまで集合形式にしていた研修会をオンラインで行う。
導入の効果	・学校から研修会に参加できることで、移動時間の短縮 ・複数の教職員の参加が可能
課題・対応	・通信環境の整備 ・聞き手の表情や雰囲気十分に把握できないことがある。
留意点	・受け身にならないように、双方向のやりとりができるようにする。

### 教育委員会の取組

分類	④
見出し	「AI教材」の活用
取組内容	・個別最適な学びにおける「個別の学習」において、「AI教材」の活用ができる環境を整えている。
導入の効果	・各小中学校で、「個に応じた指導」の手立ての1つとして、活用が進められている。
課題・対応	・先進的に取り組んでいる市町村等の情報を収集し、個別の学習の充実に向けた「AI教材」の充実を図っていく必要がある。 ・タブレットの持ち帰りに合わせ、「AI教材」の活用が進むと考えられる。その効果や課題を今後、検証する必要がある。
留意点	・各学校間の活用状況の確認や情報交換を行う必要がある。

## 教育委員会の取組

分類	④
見出し	Chromebookの活用方法の動画作成
取組内容	・臨時休業前に、Chromebookの使用方法を動画で作成し、各学校や家庭で効率よく使用できるようにした。
導入の効果	・家庭でChromebookを使用することについての問い合わせが各学校に行くことはなかった。
課題・対応	・保護者にも必ず確認してもらえるよう、保護者あて文書を作成し送信した。
留意点	・児童・生徒、保護者がChromebookの使い方を簡単に理解できるように動画を作成した。 ・教育委員会で保護者通知も作成し、保護者への周知を図った。



### 教育委員会の取組

分類	⑤
見出し	市教育長との面談
取組内容	<ul style="list-style-type: none"><li>・教育長と時間外勤務時間が多い学校の学校長と面談を実施</li><li>・学校への指導や当該職員の健康状態の把握</li><li>・教職員とも面談を実施</li></ul>
導入の効果	<ul style="list-style-type: none"><li>・翌月には時間外勤務時間を減らそう努力する職員が増えた。</li><li>・時間外勤務の内容を知ることができ、管理職等から適切な声かけができるようになった。</li></ul>
課題・対応	<ul style="list-style-type: none"><li>・学校には、中旬ぐらいに80時間を超えそうな職員に声かけをお願いした。検討が必要。</li><li>・時間を意識する職員が増えてきている。どのような業務を頑張ろうとしたのか、適切に評価していきたい。</li></ul>
留意点	

### 教育委員会の取組

分類	⑤
見出し	ポスターコンクールなどの応募作品の審査・提出作業等の削減
取組内容	<ul style="list-style-type: none"><li>・応募作品について審査が必要な場合は、指導課職員が行うこととした。</li><li>・コンクール主催団体が作品を学校まで取りに行くこととした。</li></ul>
導入の効果	<ul style="list-style-type: none"><li>・教職員の事務作業が削減された。</li></ul>
課題・対応	<ul style="list-style-type: none"><li>・教職員が行うのは、募集要項等の配布と作品の収集のみ</li><li>・作品の収集を主催団体等にあらかじめお願いしておくことになる。</li></ul>
留意点	<ul style="list-style-type: none"><li>・主催団体等に対して、事前に事務の流れを教育委員会から説明しておくことが必要</li></ul>

### 教育委員会の取組

分類	⑤
見出し	外部から児童生徒への配布物における教職員の負担軽減
取組内容	<ul style="list-style-type: none"><li>・教職員が児童生徒に対して個別配布することをやめ、校内の定位置に置くことで児童生徒が自由に取っていくこととした。</li><li>・依頼主が個別配布を望む場合は、市ホームページに配布物のPDFファイルを掲載し、市のメールでアドレスを配信している。</li></ul>
導入の効果	<ul style="list-style-type: none"><li>・教職員の事務作業が削減された。</li></ul>
課題・対応	<ul style="list-style-type: none"><li>・配布依頼者からは、相変わらず紙での個別配布を求められることもある。</li><li>・紙面での配布はできないことを周知していく。</li></ul>
留意点	<ul style="list-style-type: none"><li>・期限が切れたもの等は削除するなど、ホームページの定期的な整理が必要</li></ul>

### 教育委員会の取組

分類	⑤
見出し	・通知表の見直し・作品募集の見直し
取組内容	・2学期制の導入に伴い通知表を見直し、所見を年1回にした。 ・夏休みなどの作品募集を一度に見直した。
導入の効果	・夏休みなどの作品募集の整理がなくなり、児童生徒と共に余裕をもって夏休み明けを迎えることができる。 ・余裕をもって成績処理等が行える。
課題・対応	・応募したい児童生徒には作品募集の案内はするが応募は各自で行ってもらうようにした。 ・校務支援システムが十分機能していない。
留意点	・必ず学校から応募しなければならないものを確認する。

### 教育委員会の取組

分類	⑤
見出し	smart moriya(クラウド)の活用
取組内容	・学校のポータルサイトを作成、保護者への配付物及び調査物をクラウド上で確認できるようにした。
導入の効果	・検温カードや出欠席の確認の時間を短縮 ・保護者アンケート集計の時間短縮
課題・対応	・コロナ禍での実態調査の増加 ・市教委で一斉調査
留意点	・調査内容を学校と共有

